



令和 6 年 8 月 6 日

報道関係 各位

名古屋市立大学病院 整形外科
主任教授 村上英樹
電話 : 052-853-8236

下大静脈を合併切除する脊椎がん拡大根治手術に世界で初めて成功

【概要】

この度、名古屋市立大学病院の村上英樹医師は、脊椎3つにまで広がりさらに下大静脈にまで浸潤する小児の骨肉腫に対して、下大静脈も同時に切除するというこれまでに例を見ない脊椎がんの拡大根治手術に挑み、世界で初めて成功しました。手術は、整形外科、心臓血管外科、泌尿器科、消化器外科の合同手術で、麻酔科、小児科の協力の下、多職種が一丸となったワンチームで行われました。手術は2024年7月に2日に分け、計16時間に及ぶ大手術になりました。患者さんは現在、順調に回復してきております。

【背景】

脊椎がんに対し、がんに侵された脊椎を丸ごと切除する根治手術（腫瘍脊椎骨全摘術）は1989年に考案された日本オリジナルの手術です。現在、この手術を日本で最も多く施行している、日本唯一の手術指導者が名古屋市立大学整形外科主任教授の村上英樹医師です。村上医師は、この手術をさらに改良し、脊椎がんの切除と同時に全身のがん免疫療法が可能となる画期的な手術術式（次世代腫瘍脊椎骨全摘術）を2010年に考案し、手術概念を飛躍的に発展させた脊椎がん手術の世界的名医です。

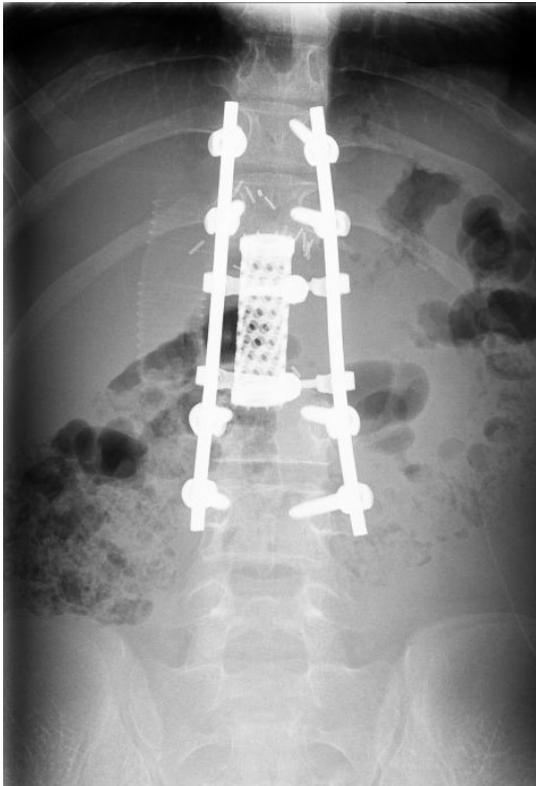
今回の小児患者さんは、脊椎がんがすでに下大静脈に浸潤しており、手術の実施は絶望的な状態にありました。しかし、この子の命を救う唯一の手段は根治手術しかありません。常識を打ち破り不可能を可能にして何とか命を救うことはできないか、多職種の医師そして医療スタッフで何度も何度も議論が重ねられました。そして、それぞれの専門家の経験と技術さらに知恵と勇気を結集すれば、なんとか根治手術も可能になるとの結論に至り、多職種で綿密な手術計画を立ててこの世界初の手術に挑みました。

【術式の説明】

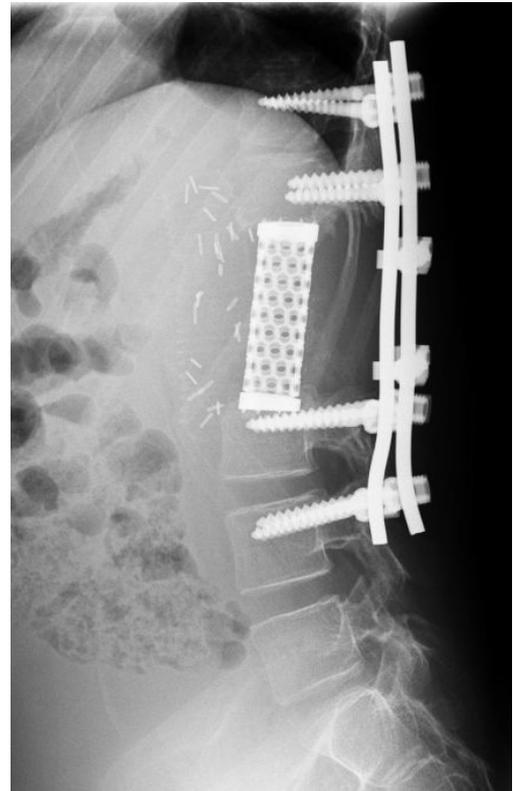
1回目の手術では、腹側から腫瘍に侵された下大静脈の両端を切断して、その間を人工血管で繋ぎました。さらに腫瘍周囲の大動脈、腎動脈を剥離して、腫瘍に付着している横隔膜と大腰筋を切離しました。手術時間は6時間30分でした。その10日後に2回目の手術を施行しました。2回目の手術は、背中から脊髄神経の周囲を剥離して神経を温存しつつ、第12胸椎、第1腰椎、第2腰椎の3つの脊椎を下大静脈ごと丸ごと一塊にして切除しました。切除後は金属インプラントで脊椎を再建しました。手術は9時間30分かかりました。下大静脈まで浸潤した脊椎がんに対して、脊椎を下大静脈ごと一緒に根治切除



した報告は世界的に見てもこれまでありません。この手術は世界初の成功例となります。



腰の正面



腰の側面

※取材をご希望の際は、事前に病院広報担当（大山・鈴木 電話 052-858-7116）までご連絡をお願いいたします。